

第二回中間報告（秋学期終了報告）  
2023年10月2日-12月15日  
（セメスター1開始～クリスマス休暇前）

国際ロータリー2710地区  
2023-24年度 地区補助金奨学生  
小林美晴

### 1. 報告書提出日

2024年1月6日

### 2. 基本情報

氏名：小林美晴

派遣ホストクラブ/カウンセラー：広島南ロータリークラブ / 山内恭輔様

教育機関：シェフィールド大学 The University of Sheffield

専攻分野：東アジアにおける政治とメディア MA Politics and Media in East Asia

### 3. 学業面での成果

初めての学期が終了し、時間が経つ早さに驚いております。改めて一日一日を噛み締めて過ごしていきたいです。今学期はメディアと国際関係のどちらも体系的に学ぶことができました。しかしながら扱うテーマの幅広さから理解度を深めるのにかなり苦勞した学期となりました。

秋学期受講したモジュールは以下の3つになります。

#### （1）東アジアにおける国際関係【International Relations in East Asia】

国際関係論の理論を基本としてそこから日本、中国、朝鮮半島、ロシア、アメリカ、ASEAN（東南アジア諸国）といった幅広い国のケーススタディを扱う授業でした。そもそも国際関係の理論が西洋の国々で作られたものであることを考えると、東アジアに落とし込んで考えた際にうまく当てはまらない事例が多くありました。改めて国際関係という枠組みのみならず、地域研究という枠組みで東アジアの事例を学ぶ意義を感じる授業になりました。基本的にどの授業もレクチャーとセミナーがセットになっているのですが、セミナーでは学生の質問に対してチューターによる解説を交えた形で進むため、レクチャーや Reading の内容の理解がより深まりました。現在ウクライナとロシアの戦争やイスラエルとパレスチナの戦争が起こっていますが、セミナーチューターによる「朝鮮半島の戦争は終わ

っていない」という言葉に改めて背筋が伸びました。台湾情勢も含め、東アジア地域も気を抜くことが許されない状況が続いていることには変わりなく、その上で日本の外交上の役割の重要性も日々増していると感じさせられました。

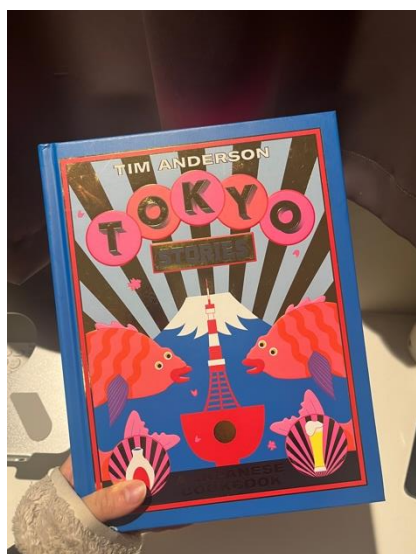
### (2) グローバルガバナンスと日本【Global Governance and Japan】

ガバナンスという観点から日本の役割についてさまざまなテーマをとり扱う授業でした。海外投資、海外支援、環境政策など学部時にはあまり注力してこなかった経済の視点からの日本の役割を捉えることができ、自分自身の問題関心の広がりにつながりました。国際関係学においては国と国の関係のみで議論が行われてしまい、国内の情勢はあまり加味されないことが多いです。しかしながら、この授業の担当をしていた教授が政治経済学をご専門にされていることもあり、日本国内の経済状況と外交政策の関わりといった単なる国の関係や安全保障の観点では見えてこない日本の政策決定の背景、課題点を学ぶことができました。

### (3) 中国における国家、メディア、社会【State, Media, and Society in China】

中国の国内情勢（階級、ジェンダー、地域・経済格差など）と幅広いメディア（映画、雑誌、ドキュメンタリーなど）の関わりを扱う授業でした。前半は他の授業と同様、レクチャーとセミナーで構成されていたものの、後半は学生ごとに細かなテーマが割り当てられ、エッセイを書き、それらを学生同士がセミナーで読み合って議論するという形態でした。私は「Bad News」というテーマの中で中国における食中毒とその規制に関するエッセイを書きました。中国の独特の政治体制が欧米諸国で取られているようなリスクベースでの規制を阻害しているだけでなく、中国の社会的要因も深く関与していることが分かり、政治体制以外の社会的側面を含めた政策の検討の必要性を感じました。メディアと政策（政治の面）という二つをうまく混ぜ合わせたエッセイを書き上げることができ、少しだけ自信になりました。

また学業面以外においては学部の代表の一人（Student Rep）としてこの一年活動することになりました。何か学業以外にも奉仕活動を行いたいと考えており、学部のスタッフと一緒に働くことができる機会でもあったので思い切って立候補しました。学生生活の質の向上のため、学生代表として学部のスタッフとのミーティングに出席したり、学生に向けた交流イベント企画を行ったりすることが主な仕事内容になります。今年は中国人、ポーランド人、日本人（私）の3人で活動することになりました。他二人の代表の生徒がクリスマス休暇でシェフィールドを離れてしまっていたので、私一人の活動にはなってしまったのです



が、最初の活動としてクリスマスパーティーを企画し、20名ほどの学生とスタッフの交流会を開きました。学部が費用を負担してくれたため、学生たちに大量のケンタッキーチキンを振る舞うことができました。留学生は国に帰らずにイギリスに残ることが多いのでこうした場が大変貴重になったのではないかなと感じています。

←学部のスタッフの方が Student Rep になった記念に日本の料理本をプレゼントしてくださいました！これ

を見ると流石に日本食が恋しくなりました…。

#### 4. 直面した課題

学業面において幅広いテーマの中でいかに理論との結び付けを行なっていくかということが最大の課題となりました。テーマが広い分、ともすれば表面的な議論や理解に終わってしまう中で授業の中で触れられた理論を噛み砕いてケーススタディに繋げていく作業に苦戦しました。この点で自分が満足する習熟度に至っていないと考えております。いい意味でも悪い意味でも自分でどれだけやったかが自分の得たものに直結する中でさらに気を引きしめて取り組んでいきたいです。また効率的な予習、復習の進め方がまだできておらずセミナーでの発言がうまくできなかったり、深い議論に繋がられなかったりといったことがある中で自分自身の力不足に落ちこむ日々もありました。しかし、自分自身の不足は常に改善、そして成長の余地であるということを考えて日々できないことに真摯に向き合っていこうと考えています。幸いなことに比較的多くのネイティブの友人に囲

まれているのでライティングの課題を見てもらい、英語の文法表現や内容のアドバイスをもらえています。周りに頼ることを少し億劫になってしまっていました。臆することなく教授や友人などに頼っていきたいです。

## 5. 今後の課題・目標

これからの目標ですが、勉強面ではアウトプットを意識したインプットを行っていきたいです。インプットすることに満足してしまいアウトプットに時間がかかってしまっているなど反省しております。1月に締め切りを迎えるエッセイがたくさんあるのでとにかくそれらに全力で取り組みたいです。また生活面に関してですが、このところ安いジャガイモとお米という炭水化物ばかり摂ってしまい、体重が増えてしまったので野菜を積極的にとるなど、食生活に気をつけたいです。また運動不足がちになってしまっているのを体を動かす努力も続けていきたいと考えています。

また就職活動についてですが、「Global Governance and Japan」の授業において政治経済を学ぶ中で日本による海外投資や貿易といった経済活動が歴史問題摩擦においても重要な役割を果たしてきたことを学びました。その中で出てきた独立行政法人という選択肢に大変魅力を感じています。ロンドンにも事務所を構えている法人なので近々ロンドンに赴き OB/OG 訪問を行う予定です。また春にロンドンで行われるキャリアフォーラムに向けても準備を進めていきます。学業との両立がこれからも課題となりそうですが、悔いを残さないようにしっかり踏ん張って頑張っていきたいと思っております。

## 6. その他

Student Rep として教授の方々と関わる時間が多いこともあり、学部の皆さんがいつも私に気を配ってくださっているのが大変伝わります。またシェフィールド大学は東北大学とのダブルデグリーの博士課程プログラムを持っており、「将来的にシェフィールドに戻ってきて博士課程をするのはどう？」と教授から勧められています。大学院にきて、研究という分野が社会に果たしている役割の重要性と特殊性をしみじみと感じていることに加え、イギリスという国、シェフィールドという地域、そして何より大学の環境にとっても魅力的なので将来の一つの選択肢として考えたいなと思っております。この可能性を残すためにもまずは目の前のことに必死に取り組みたいです。

こちらに留学にきて日常生活から学問まで新たに気付かされることがとても多く、本当に貴重な経験をさせていただいているなど改めて感じています。この機

会を存分に活かし、社会に貢献できる人材と一段と成長するために今年も様々なことにチャレンジし続けていきたいと考えています。改めてこのような貴重な機会を与えてくださり本当にありがとうございます。  
今年もどうぞよろしくお願いいたします。



←留学初日にお世話になったバングラデッシュのお母さんにもこの学期中に会いに行きました。「いつでもご飯を食べにおいでね」と言ってくださり、本当にありがたいです。

フラットメイトの誕生日にみんなで写真を撮りました。10人で住んでいるのにも関わらず、特にトラブルもなく、改めて住みやすいフラットに感謝の気持ちでいっぱいです。

